

環境対策課長の仕事宣言！ 進行管理表

環境対策課長 榎原聖二

①重点施策項目名	環境保全活動を進めます〔1-1〕
②目標値	環境美化活動参加者数 (H28) 現状値 530 人⇒H28 年度末 1,200 人 (H32) 現状値 530 人⇒H32 年度末 1,800 人
③今年度の取組方針	今年度は河川清掃や空き缶拾いなどの環境美化活動や各種環境出前講座、ごみ処理施設見学会、水生生物調査などを開催するほか、各地区まちづくり推進協議会で開催する環境美化活動を支援する。
④上半期の取組内容	6月に県内一斉ふるさと美化活動を実施し230人が参加したほか、7～8月にかけて水生生物調査を鳥栖基山連携事業として実施し親子22組52人が参加した。またごみ減量化やリサイクルの必要性などについて、町区や日本語学校で環境出前講座を開催、計3回に98人が参加した。ごみ処理施設見学会には2団体計61人が施設見学した。
⑤下半期の取組内容	10月に予定していた山下川清掃は雨天中止となったが、11月の「第3回スポ GOMIin 鳥栖」には24団体104人、1月の捨てちゃい缶バイ！作戦には19団体238人がそれぞれ参加したほか、旭クリーンアップ作戦に地区住民247人が参加。2月下旬には鳥栖地区でごみゼロ大作戦が予定されている。また市内小学校や市民団体、日本語学校等で実施した環境出前講座は計14か所937人が出席した。
⑥数値目標の結果	環境美化活動に1月末時点で計819人が参加。2月下旬の鳥栖地区ごみゼロ大作戦が予定されているものの、山下川清掃や若葉クリーンアップの2事業が雨天のため中止になり、1,200人という目標達成は困難な見込みとなった。
⑦成果と課題 (次年度に向けて)	環境美化活動は天候に左右される部分もあるが、引き続き各地区による美化活動の取組を支援するとともに、市で行う既存の事業の継続を図りながら、市民への啓発を通じて、参加者の増加につなげていきたい。

◇所管部長の指示

上半期

環境保全の啓発、周知等を進めるための各種活動について、計画どおり推進されている。
今後も、参加者数の増加、環境保全意識の向上のための施策を展開すること。

下半期

スポーツごみ拾い活動など各環境保全活動が開催され、市民のゴミ減量に対する意識向上につながった。スポーツごみ拾いについては、民間企業の協賛もあり広がりの可能性も見えるものとなった。今後も、市民、地域、民間企業も含めた環境意識高揚の事業として一層の取組を進めること。

環境対策課長の仕事宣言！ 進行管理表

環境対策課長 榎原聖二

①重点施策項目名	ごみ減量化とリサイクルを進めます〔1―2〕
②目標値	市民1人1日当たりの資源物以外のごみ排出量 現状値 908g/人・日（H26実績）⇒平成28年度末903g/人・日 現状値 908g/人・日（H26実績）⇒平成32年度末883g/人・日
③今年度の取組方針	資源物広場及び町区コンテナ収集、資源回収団体による回収に加えて、リサイクルの推進及び啓発を目的に古紙類の回収方法の多チャンネル化を検討するほか、これまでの電動生ごみ処理機購入補助に加えて、市民から要望があっていたディスポーザーやコンポストなどの非電動型の生ごみ処理器も補助対象に加えるよう補助金交付要綱を見直す。
④上半期の取組内容	要綱を改正し、従来の電動生ごみ処理機に加え、非電動型生ごみ処理機まで補助対象を拡大。電動12件、非電動20件の計32件の応募があり、公開抽選会を開き当選者28件を決定した。また、地区まちづくりセンターでの古紙回収ボックス設置に向けて、関係課と設置後の管理等について課題整理中。溶融資源化センターでの許可車両の抜き打ち検査実施について鳥栖・三養基西部環境施設組合及びみやき町、上峰町との日程調整中である。
⑤下半期の取組内容	今後の施策に生かせるよう生ごみ処理機購入者に対してアンケートを実施した。各地区まちづくり推進センターへの古紙回収ボックス設置は関係団体等との協議・調整を行い、来年度からモデル地区を選定し設置予定。また、一般廃棄物搬入の適正化を図るため、みやき町にある溶融資源化センターで収集運搬許可車両の抜き打ち検査を年2回実施。産業廃棄物の混入を確認した車両があり、許可業者への指導等を行った。
⑥数値目標の結果	H27年度実績で1人1日当たりごみ排出量が871gと大きく減少、H29年1月末実績でも855g（前年同期877g）で、さらにごみ減量化が図られた。 H32年度の目標値を既に達成した形となった。
⑦成果と課題（次年度に向けて）	1人1日当たりごみ排出量が大きく減少した主な要因は、事業系一般廃棄物の減少幅が大きかったためである。ごみ減量化とリサイクルに対する市民の意識は高まっているものの、具体的な取り組みという点では十分とは言えず、この数値が一過性のものにならないよう、市民自らが取り組める継続的な施策の検討や、町区の集りなどさまざまな機会をとらえて、ごみの出し方を含め市民への啓発を進めていきたい。

◇所管部長の指示

上半期

ごみ減量化・リサイクル推進のための施策を着実に推進している。また、新たな取り組みについても積極的に検討を進めており、具体的な事業展開が期待される。

下半期

まちづくり推進センターとの連携による資源回収活動の拡大を検討するなど、新たなごみ減量化に向けた仕組みづくりを進めている。今後も、ごみ減量化とリサイクルの推進を図るため、新たな仕組みの着実な対応と取組を進めること。

環境対策課長の仕事宣言！ 進行管理表

環境対策課長 榎原聖二

①重点施策項目名	次期ごみ処理施設建設を進めます
②目標値	(H32) 次期ごみ処理施設建設着手
③今年度の取組方針	今年度は鳥栖市、みやき町、上峰町、神崎市、吉野ヶ里町の2市3町による建設協議会での協議を踏まえながら、次期ごみ処理施設建設予定地周辺の環境影響評価（アセス）に向けた配慮書及び施設整備基本計画の策定を進める。また、周辺住民の不安解消と同施設への理解を得るため、今後の建設スケジュールや施設及び施設周辺における安全対策を含めた施設整備構想等に関する説明会を順次開催する。
④上半期の取組内容	東部ブロック次期ごみ処理施設建設協議会が4回開催され、施設の内容や用地、全体行程、組織体制のほか、2市3町の建設負担割合や管理運営負担割合などで合意に至った。また、住民説明会を5月に安楽寺町で、8月に下野町で開催。今後のスケジュールや交通対策などを説明し、住民の不安解消と理解促進に努めた。
⑤下半期の取組内容	10月30日あさひ新町で住民説明会を開催したほか、地元真木町の会合に随時出席し事業の進捗状況等について説明を行った。また2市3町の建設協議会では12月27日、合意事項について覚書を締結したほか、環境アセスや施設整備基本計画の策定に着手した。
⑥数値目標の結果	環境アセスや施設整備基本計画策定に着手、学識経験者など外部委員が入る建設検討委員会も設置され、本格的な建設に向けた準備が着実に進むとともに、2市3町の覚書締結がなされたことは一定の成果があった。
⑦成果と課題（次年度に向けて）	事業が進捗する中、建設地である鳥栖市の責任を自覚し、今後の協議においても積極的に意見や提案を行っていくとともに、建設着手までの諸課題の早期の解決に努めたい。また、施設整備基本計画の策定等に合わせて、周辺町区をはじめ、市民へ随時情報の公開に努める。

◇所管部長の指示

上半期

東部ブロック次期ごみ処理施設建設協議会の計画どおりの推進、住民説明会の実施など、確実に事業進捗がなされている。今後も、関係機関との連携を図りながら、事業の適切な進捗を行うこと。

下半期

次期ごみ処理施設建設に向けた2市3町による覚書の締結、議会全体説明の実施など、適切に対応が進められている。今後も、スケジュールを踏まえた対応を図ること。

環境対策課長の仕事宣言！ 進行管理表

環境対策課長 榎原聖二

①重点施策項目名	し尿等下水道投入施設建設を進めます
②目標値	(H32) し尿等下水道投入施設の安定稼働
③今年度の取組方針	鳥栖市衛生処理場し尿処理施設は昭和60年4月の稼働から30年を経過し、これまで市直営による管理運営を行ってきました。しかし、下水道の普及により、し尿や浄化槽汚泥の処理量は年々減少し、30年を超えて施設自体の老朽化が進んでいることから、し尿等下水道投入施設による対応を行うことを市の方針として、昨年度、決定しました。 今年度は、来年度からの建設工事着手に向けて、基本設計・実施設計を策定します。
④上半期の取組内容	昨年度策定した基本計画を踏まえ、8月には実施設計業務の委託業者を指名競争入札により決定し、具体的な策定作業に着手しました。
⑤下半期の取組内容	現し尿処理施設の老朽化に伴う設備の突発的な故障等に対応しました。新たな投入施設の建設に向け、所管課である上下水道局事業課等と協議をしながら、安全で効率的な新たな施設建設に向けて実施設計の策定に取り組みました。
⑥数値目標の結果	現施設の老朽化もあり、目標年度よりできる限り早い時期の稼働を目指し、来年度の工事着手を予定していたが、国の補助申請手続きの関係から計画を1年先延ばしし、平成30年度工事着手、翌31年度中の稼働を目指すこととしました。
⑦成果と課題 (次年度に向けて)	現し尿処理施設の老朽化が著しい状況で、計画を1年先延ばししたこと等から予想外の故障等でし尿処理に支障をきたす可能性も考慮し、新施設へ移行するまでの間の安定的なし尿処理体制を早急に検討します。

◇所管部長の指示

上半期

基本計画に沿って、具体的な作業に着手している。今後も、計画及び方針を踏まえた適切な事業進捗を行うこと。

下半期

関係機関との協議を適切に進めてきた。今後、し尿処理施設の老朽化状況を考慮し、対応体制の早急な検討を進めること。